

事務事業名		健康サポートさの活動推進事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	2 やさしくふれあいのある健康福祉づくり					担当組織	担当部	健康医療部	担当課	健康増進課
	政策	1 健康で安心して暮らせるまちづくり					担当係	地域医療係	担当課長名	川島紀昭	
	施策	1 心と体の健康づくりの推進					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	1 健康づくりの推進					実施計画事業・一般事業		実施計画事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	6877	一般	4	1	1	健康サポートさの活動推進事業					
	事業区分		市単独事業・国県補助事業		市単独事業						
	事業区分		任意的事業・義務的事業		任意的事業						
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H24年度～ 年度		根拠法令等	健康増進法 さの健康21プラン					
	実施方法		直営								
	事業分類		支援事業								
	リーディングプロジェクト		該当なし								
		市長マニフェスト		1-5							

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)	平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)						
市民の健康づくり推進のため、「さの健康21プラン」に基づき、市民の健康づくり推進のため、「健康サポートさの」に対して交付金を支出し、その活動を支援する。	<市の活動> 健康サポートさのに交付金を支出する事務(申請書の内容審査、交付決定、実績報告書の内容審査、交付金交付)。 各支部活動(健康講座、料理教室)に対する助言指導、会員の養成講座等の支援。 <団体の活動> ・10支部に分かれ、それぞれに、各種料理教室や運動教室を企画し開催した。会員以外の参加も促し、地域における健康づくり、仲間づくりを行った。 ・栃木県食生活改善推進団体連絡協議会及び安足地区食生活改善推進団体連絡協議会に加入し、日本食生活協会や栃木県からの委託事業も実施した。 ・活動拡大に向け、会員養成講座を実施した。						
	活動指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)
	会員数(総会時)	人	297	211	210		
	活動回数	回	183	161	150		
	活動に参加した市民延べ人数	人	3,940	3,465	4,000		

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

市民	対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)
	市人口	人	123,182	122,582	121,522		

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

健康に対する正しい知識の普及を図り、健康意識の向上を図る。	成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
	活動に参加した市民延べ人数 / 市人口	%	3.2	2.8	3.3		
	健康教室・健康相談等参加延べ人数 / 市人口	%	3.1	2.7	3.2		

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

市民が、健康に対する知識を深め、健康づくりに取り組んでもらう。	上位成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
	健康づくりに取り組んでいる市民の割合(市政に関するアンケート)	%	73.8	75.8	76.0	77.0	78.0

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)		
	国庫支出金	千円								
	県支出金	千円								
	地方債	千円								
	その他	千円								
	一般財源	千円		1,300	1,000	1,000				
	事業費計(A)	千円		1,300	1,000	1,000	0	0		
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			負担金補助及び交付金	1,300	負担金補助及び交付金	1,000	負担金補助及び交付金	1,000		
人件費	人		4	4	4					
のべ業務時間	時間		570	570	570					
人件費計(B)	千円		2,218	2,246	2,246	0	0			
トータルコスト(A)+(B)	千円		3,518	3,246	3,246	0	0			

事務事業名	健康サポートさの活動推進事業	担当部	健康医療部	担当課	健康増進課	担当係	地域医療係
-------	----------------	-----	-------	-----	-------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成21年度に佐野市補助金等交付検討委員会から出された提言書に基づき、「佐野市健康づくり推進委員会」と「佐野市食生活改善推進連絡協議会」の統合が検討され、平成24年度に新しく「健康サポートさ」を発足させた。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	少子高齢化が進み、メタボリック症候群をはじめ、悪性新生物や循環器疾患等生活習慣病の割合が増加傾向にある。このような状況下で、生活習慣病や認知症等を予防し、健康で過ごせる期間(健康寿命)の延伸を図るための健康づくりが、今後ますます重視されてくると思われる。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	平成21年度に佐野市補助金等交付検討委員会から、類似団体の統合の提言が出された。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	健康サポートさの活動は、会員以外の一般市民も参加し活動するため、政策体系の心と体の健康づくりの推進に結びついている。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	総合計画に基づいた「健康で安心して暮らせるまちづくり」を実現するため、市民を対象とした健康づくりの推進は、市が行うべきである。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	市民に対し、健康に対する正しい知識の普及を図り、健康意識の向上を図ることは妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案	市民への健康づくりの啓発や地域における健康づくりの推進のために、健康サポートさの会員(健康サポーター)の人材育成を図っていく必要がある。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名
	* 類似事務事業があれば、名称を記入			
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	統合以来、事業費を削減されており、会の活動を続けるうえでこれ以上の削減の余地はない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案	受益者は会員と、その活動に参加する一般市民である。各支部活動費配分は定額としており、調理実習等の事業費が不足する場合等は、必要に応じて参加者から自己負担を求めているので、現在の受益者負担は適正と思われる。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか?)			
「さの健康21プラン」の推進により、全ての市民が健康づくりに取り組み、心身ともに生き生きと生活できるようになったとき、この事業も終了する。				

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
事業のやり方改善(成果向上の見直し) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) 健康サポートさのの会員(健康サポーター)の人材育成、会員の増加を図っていく必要がある。	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下		×	×	会員の高齢化が進んでおり、若い会員の養成が必要である。 積極的に会員の募集を図る。
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上		○																						
	維持			×																					
	低下		×	×																					